

仁伏半島

ここが開始地点となっている摩周屈斜路トレイル（MKT）のこの3キロにわたる部分は、仁伏半島の森林地帯を通り、砂の湖岸部分も含んでいます。頭上高くそびえるカツラの木など、広葉樹やトドマツが、トレイルのほとんどを覆っています。一部では、屈斜路湖を見渡すことのできる景色も堪能することができます。開始地点に戻ることもできる短いルートは、葉っぱが青々と茂る春と紅葉が見られる秋が特に魅力的です。

有名な植物や霜現象

トドマツは、北海道全土に生えている丈夫な針葉樹です。二伏半島に生えるトドマツの多くには、その幹に目立つ縦のひび割れがあります。これらの霜割れは真冬に起こるもので、特に気温が摂氏マイナス30度を下回ると、凍結融解によって引き起こされます。この森林には他にも、オヒョウ、ハリギリ、ホオノキ、コブシ、そして数種類のカエデが生えています。

アイヌの文化・風習の窓口

地元アイヌの人々は、仁伏半島に生える植物の多くを利用していました。屈斜路湖周辺のアイヌの人々は、カツラの木を伐採して輸送や取引用の丸木舟を彫っていました。また、オヒョウの樹皮を柔らかく加工して丈夫で耐水性の衣服を編むための糸を紡ぎ、ヤマブドウの実を採集しました。

野生生物の生息地

仁伏半島は、野鳥やエゾジカからムササビまで、地元の野生生物の棲みかとなっています。カラスほどの大きさのクマゲラも、この辺りに生息しています。クマゲラは、木の幹に深く細長い穴を彫り、餌を探します。

MKT の各所ではヒグマが時折目撃されているので、訪問者はクマよけ鈴を携行することが推奨されています。